

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

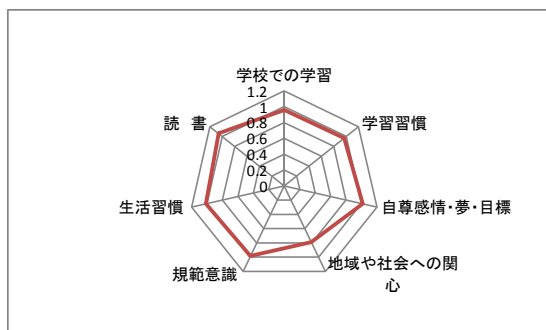
国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均をやや下回っているが、文章の要旨を捉える内容を理解する問いは全国平均を上回っているが、言語に関する問題では、漢字を正しく書く問題に無答が多く、正答率も低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の要旨を捉える内容を理解する問いは上回っている。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く問題は、正答率が低い。語句についての理解が必要である。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	資料を活用して話したり、話の構成や展開などに注意して聞く能力は全国平均を上回っているが、記述式問題、表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題は正答率が低く、無解答率も全国平均よりも高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて資料を活用して話す問い(話す、聞く能力)は上回っている。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について自分の考えを書く能力、わかりやすく書く能力をつける。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回ったが、分数の乗法の計算をする問題や二元一次方程式正答率が高く、図形に関しての正答率が低く、円柱の体積、扇形の弧の長さなど、1年生で学習した内容の確認が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	分数の乗法の計算をする問題や二元一次方程式を解く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	図形に関する問題や数量の関係を文字式で表す問題の正答率が、低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回ったが、資料から必要な情報を適切に捉える問題に関しては、全国平均を上回ったが、図形に関する問題に関しては正答率が少なかった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料から必要な情報を適切に捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	2つの図形の関係を回転運動に着目して捉える問題の正答率が、低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書好きな生徒が多く全国平均を上回っている。 ・将来の夢や希望をもっている生徒や人の役に立つ人間になりたいと思うは全国と同じくらいである。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけていかなければならない。 ・地域の行事への参加率がかなり低いことが課題である。 ・3年生になって平日60分以上ゲームをする生徒は減ってきているが、それでも半数以上は、行っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業において、めあてとまとめ・振り返りを示したり、話し合い活動を取り入れたりして、今後も学校全体で取組を推進して授業力の向上を図る。各教科の授業の中で、自分の意見を書いたり説明したりする時間を積極的に多く取り入れ、「書く」、「説明する」ことの習慣化を図る。朝自習や裁量の時間を活用し、計算や漢字、英単語などの基礎的

② 家庭生活習慣等に関する取組

自学ノートの提出率や宿題をする率は昨年度より上がってきている。今後は、提出できない部の生徒の手立てを講じ、更なる向上を図る。また、定期的な生活アンケートを実施して、生徒の生活習慣を把握した上で、懇談会や通信などを通じて、生徒・保護者に家庭学習の大切さを啓発していく。将来の夢の実現に向けて主体的に学習に取り